

第23回延岡西臼杵地域医療構想調整会議 議事録

1 日時

令和8年7月9日（木）午後7時から午後9時まで

2 場所

延岡保健所 2階 講堂 （延岡市大貫町1丁目2840番地）

3 出席者

（1）委員

出席者名簿のとおり

（2）地域医療構想アドバイザー

宮崎県医師会 副会長 金丸 吉昌

（3）事務局

- ・延岡保健所 所長、次長（総括）、次長（技術）、総務企画課長、健康づくり課長、健康管理担当リーダー、疾病対策担当リーダー、総務企画担当
- ・高千穂保健所 所長（延岡保健所兼務）、次長（技術、延岡保健所兼務）、総務企画課長、総務企画担当主査

（4）宮崎県福祉保健部医療政策課

医務・計画担当主幹、医務・計画担当主任主事

4 次第

- （1）調整会議運営要綱及びワーキンググループ運営要領の改正について（議事）
- （2）第8次医療計画の中間見直し及び新たな地域医療構想の策定について（報告）
- （3）宮崎県医療資源調査・分析事業における令和7年度分析結果報告について（報告）
- （4）新たな地域医療構想における構想区域の設定について（報告）
- （5）かかりつけ医機能報告について（報告）
- （6）今後のスケジュールについて（報告）
- （7）その他

5 会議経過及び主な意見等

- （1）延岡保健所長挨拶
- （2）議長（一般社団法人延岡市医師会 赤須会長）挨拶
- （3）調整会議運営要綱及びワーキンググループ運営要領の改正について（議事）
事務局及び医師会長より、新たな地域医療構想の実現にむけて、「一般社団

法人日本病院会宮崎県支部」、「宮崎県老人福祉サービス協議会」、「一般社団法人宮崎県介護支援専門員協会」を調整会議の構成団体へ追加することを諮ったところ（資料１～３）、特段の意見なく承認された。

（４）第８次医療計画の中間見直し及び新たな地域医療構想の策定について
（報告）

このことについて医療政策課より資料４をもとに説明し、特段意見等はなかったが、地域医療構想アドバイザーより以下のとおり補足説明があった。

- ・ 資料４の構想区域の見直しについて、構想区域は人口２０万人を基本とするとあるが、地域の実情を踏まえ柔軟に設定とも記載されているので、必ずしも２０万人に拘らなくてもよい。
- ・ 医療機関機能については、１０月から報告が始まり、医療機関は４つの機能からそれぞれが有する機能を選択してもらうことになるが、必ずしも１つの機能に絞って回答しなくてもよい。
- ・ 急性期拠点機能については、人口２０万～３０万に１つを目安とされているが、本県においてこれを満たすのは宮崎東諸県地域のみであり、他の医療圏については地域の実情も踏まえながら、構想区域の話と併せて調整会議等で議論してもらうことになる。

（５）宮崎県医療資源調査・分析事業における令和７年度分析結果報告について
（報告）

このことについて医療政策課より資料５をもとに説明し、また地域医療構想アドバイザーより以下のとおり補足説明があった。

- ・ 本データ分析事業に用いられたデータについては、古いものもあり、現場の実態と異なる部分が一部あると思われるが、あくまでも全体の動きとして参考にしてもらうとよい。

その後、赤須議長より以下のとおり意見があった。

- ・ 資料２７ページの「診療の状況」と２８ページの「救急の状況」について、こちらの統計は相当バイアスがかかっているのではないかと思う。こちらのデータは急性期病棟を退院した患者数のみに基づき分析されているので、県立延岡病院と高千穂町国民健康保険病院は正しく出ていると思うが、民間の病院では地域包括ケア病棟があり、地域包括ケア病棟からの退院患者数はこの統計から除外されている。その証拠に岡村病院は全床地域包括ケア病棟であり、相当数患者を診ているがこの統計に表れていない。また、延岡共立病院では、急性期病棟から退院させる場合と地域包括ケア病棟へ移行させてから退院させる場合があるが、この統計では、前者しか統計に表れていないと思う。このような統計を出されると、国公立の病院だけが頑張っていて、民間の病院は頑張っていない、というような見方をされる可能性があるので、このようなデータを会議等で使用するときは、

事前に説明をもらいたい。

(6) 新たな地域医療構想における構想区域の設定について（報告）

このことについて医療政策課より資料6をもとに説明し、特段意見等はなかったが、地域医療構想アドバイザーより以下のとおり補足説明があった。

- ・ 新たな地域医療構想は、別名、地域医療「介護」構想とも言われているが、介護は市町村単位の事業になるため、構想区域を広げるというのは中々難しい側面もある。どちらかという、構想区域は縮むという方向にベクトルが働いていると感じている。ただ、延岡西臼杵地域においては、県立延岡病院や延岡共立病院、黒木病院をはじめとしてそれぞれの病院が役割を果たせていると考えているので、現状を踏まえながら医療介護連携、在宅医療等について取り組むとともに、構想区域の問題についても議論してもらいたい。

(7) かかりつけ医機能報告について（報告）

このことについて医療政策課より資料7をもとに説明した。主な内容は以下のとおり。

- ・ 資料3ページにかかりつけ医機能報告の概要が記載されており、全体の流れとしては、今年の1月から3月までに各医療機関から報告をもらった①の結果を踏まえて、②～④を実施した後に、⑤として、今回の調整会議において報告を行う。報告データは保健所を通して提供する予定。それを踏まえ、⑥として、次回の調整会議において、地域でかかりつけ医機能を確保するために必要な具体的方策を検討することをお願いしたい。
- ・ 具体的方策の検討にあたっては、資料12ページの様式を活用し、地域の具体的な課題やその原因分析、地域で目指すべき姿、そのための方策を検討してほしい。

説明について特段意見等はなかったが、地域医療構想アドバイザーより以下のとおり補足説明があった。

- ・ 新しい地域医療構想の実現や地域医療提供体制の構築においては、このかかりつけ医機能が非常に大事になってくる。これを土台として医療機関機能や医療介護連携、在宅医療等の議論をしていただくことになる。
- ・ かかりつけ医機能は一つの医療機関だけで担うことは不可能。日本医師会も言っているが、いかに役割分担、連携をして、いかに面で支えるかということが大事。

(8) 今後のスケジュールについて（報告）

このことについて、事務局より資料8をもとに説明を行い、地域医療構想アドバイザーから以下の意見があった。

- ・ ワーキンググループを活用しながら調整会議で議論することを具体的にスケジュールリングしていることは素晴らしい。

- ・ 一方で、8月に予定されている病床数適正化緊急支援事業に関する調整会議での病床数の協議が書面となっているのはなぜか。
- これまでの病床数に関する調整会議については書面開催が多かったということと、スケジュールの問題もあり、今回は書面開催を検討している。
- ・ 病床数の議論は地域医療にとって非常に大事な話なので、是非対面での開催を検討してほしい。
- 要望があれば必要に応じて対面での開催も検討する。

(9) その他

特段意見等なし。その後、赤須議長から別添資料「延岡市医師会病院のハブ病院化構想」をもとに説明があった。主な内容は以下のとおり。

- ・ 来る2040年問題にむけて、特に高齢者救急への対応について医師会病院としての役割を構想しているところ。
- ・ 高齢者に多い救急疾患として、肺炎、心不全、脳血管障害、腎盂腎炎、骨折などがあるが、救急搬送される人のうち、およそ6割が高齢者というデータがあり、今後さらに増えると見込まれている。肌感覚としてはこの地域では8割が上記の疾患で、残り2割が重症患者ではないかと考えている。
- ・ このような患者の一次収容施設として医師会病院を位置づけし、老人ホームや老健、特養等の施設で起こった高齢者救急のプライマリーケア（一次診療）を医師会病院で行い、翌日または数日後に、然るべき病院に都合のいい時間に受け渡すということを考えている。
- ・ メリットとして、開業医にとっては、搬送先が決まっているので、入院先に連絡する必要がないこと。病院、有床診療所にとっては、都合のいい時間に受け取ることができ、救急に割く人員や処置道具、検査などをあらかじめ準備できるため、結果として入院患者数の増加につながる（調整ができる）。消防については、たらいまわしがなく迅速な対応ができること。行政については、機能を集約することで補助金をつけやすいことや、効率的な救急医療が行えること等があるが、その一方で人材の確保が一番の課題であると感じている。
- ・ 人材の確保に関しては、医師会としても宮崎大学や九州圏内の大学にお願いする予定だが、各団体においても、活用できる人材がいたらぜひ紹介してほしい。候補としては、プラチナドクター、プラチナナースのような方を想定している。
- ・ 本構想については、今年の12月までに準備をして、来年の1月から始めたいと考えている。他県での事例はなくチャレンジングな取組ではあるが、この取組を通して今後の高齢者救急の問題に対応していきたいと考えているので、ご理解とご支援をお願いしたい。

この件について、地域医療構想アドバイザーから以下のとおり意見があった。

- ・ 素晴らしい取組。この構想が実現すれば、かかりつけ医機能を面で支えるという点において、また介護施設が抱えている高齢者救急の受入先確保が難しいという問題等において、非常に効果があるものだと思う。その中でやはり課題となってくるのが人材確保の問題。そこについては、関係機関で知恵を出し合いながら対応してもらい、補助金等を活用しながらぜひ実現にむけて取り組んでほしい。

以 上

議事録署名人 _____ 印

議事録署名人 _____ 印